

# 平成29年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 2 - 9
事務事業名	観光・イベント振興事業			担当課係	商工観光課 企業振興・商工観光担当
総合計画上の位置付け	政策	③ 未来への活力を育むまちづくり		記入担当者	
	基本目標	7. 活気あふれるまちづくり		内線等	
	施策	7-2 観光交流によるにぎわい創出		E-mail	
	基本方針	7-2-1 観光の振興			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	7 商工費	項	1 商工費	
	目	4 観光費	事業	2 観光・イベント振興事業	
開始年度		年度	根拠法令・要綱等		

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市民及び観光客
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 観光イベントや物産展の実施により、地域の賑わいの創出や観光・交流の機会を設けることで観光客を呼び込み、観光地等の活性化に繋げる。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 小松島商工会議所への委託、観光イベントや地域のお祭りを主催する団体への補助を行う
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 市では、長年恒例となっている一大イベント「小松島港まつり」をはじめ、「チャリティー阿波踊り」など多彩な観光イベントや「渚の夏祭り」等のお祭りが県民、市民に定着しており、毎年多くの来訪者が見込まれ、賑わっている。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）							
成果指標	指標名	イベント集客数				指標の説明	指標化できない成果 観光客の心証・満足度 市民の定着度、期待度
	単位	H28	H29	H30	H31	目標年度 目標値	
	人	140,000	140,000	-	-		
	実績	135,000	130,000				
	達成度	96.4%	92.9%				
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H28	H29	H30	H31	指標の説明
	小松島港まつり集客人数（民踊、阿波踊り大会）	人	計画 20,000 実績 20,000	20,000	20,000	20,000	(計画)は目標 (実績)は公式発表人数
	小松島港まつり集客人数（納涼花火大会）	人	計画 110,000 実績 115,000	110,000	110,000	110,000	(計画)は目標 (実績)は公式発表人数
			計画				
			実績				
			計画				
		実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）		（単位：円）				
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	28年度決算	29年度決算	29年度予算	30年度予算
		財源内訳	7,450,000	11,922,602	12,221,000	22,622,000
		国県支出金		2,065,000		
		地方債				
		利用者負担				
		一般財源	7,450,000	9,857,602		
		B 人件費 ①×②	1,938,282	1,672,712		
職員平均人件費①	6,460,941	5,575,706				
従事した割合②/人	0.30	0.30				
A + B	9,388,282	13,595,314				
単位コスト	活動指標の説明	イベント集客数 135,000人	イベント集客数 130,000人		備考	
	活動指標1単位当たりコスト	70	105		平成28年4月1日現在 人口39,358人	
	市民一人あたりのコスト	239	350		平成29年4月1日現在 人口38,817人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 県内でも大きな花火大会が実施される小松島港まつりへの市民や県民の期待は大きい。安全対策やイベント経費等に要する運営経費は年々増大しており、財源の確保が困難となっている。今後も経費は増大傾向にあり、運営方法の見直しや運営費の確保について検討していく必要がある。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 小松島市の夏の一大イベントとして市民や県民に定着している小松島港まつりはもちろん、その他観光イベントについても市民や県民に定着してきており、県内外からの問合せも多い。観光資源に限られている本市にとってイベント開催は効果的であり、発展・継続していくことが望ましい。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	本市の観光資源を生かしたイベントの充実を図り、市民や県民が一体となって参加できるイベントを開催することは、地域活性化や地域の賑わい創出に不可欠である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	観光の振興と交流の推進、市のPRを図るためには、市の支援が必要不可欠である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	主催団体に対し直接支援や補助を行うため、イベントの実施に直結し、効率的であるといえる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	小松島港まつりについては、本市を代表する恒例イベントとして市民に定着しており、県内外からも多くの来場者がある。こういったイベントは本市の観光や特産品をPRする機会でもあり、賑わい創出にも寄与しており、その優先度・必要性は高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	観光イベント開催時は、県内外から多数来場いただいでおり、賑わいづくりや地域活性化・市のPRにつながっている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	地域活性化や賑わい創出に向け、市の財政状況や経済・社会情勢を考慮しながら、本市の観光資源を活かしたイベントづくりについて検討を図る。イベントの開催については、安全対策に係る費用が増大傾向にあり、運営費の確保が課題であると同時に、祭りの内容の充実や規模の拡大等が今後の課題となっている。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2	3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	評価点	79	本市の地域活性化や賑わい創出に繋がる事業であり、県内外から多数の来場者が見込めるため、波及効果も期待できる。特に小松島港まつりについては、小松島のシンボリックな事業の一つでもあるため、観光振興の観点や市域の発展という観点からも継続する必要がある。
	4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	2		
	5 完了・休止・廃止	19 点 以下			

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】
----------------------------------

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2	3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	今後も、現在恒例として開催している観光イベントやお祭りを継続し、来場者のニーズや小松島市の経済効果、強いては賑わいづくりへの波及効果等を、幅広く検討しなければならない。市の財政状況や経済・社会情勢を考慮しながら、市民はもちろん、県内外客に支持されるイベントを開催できるように検討、拡充する必要がある。
	4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	
	5 完了・休止・廃止	19 点 以下	